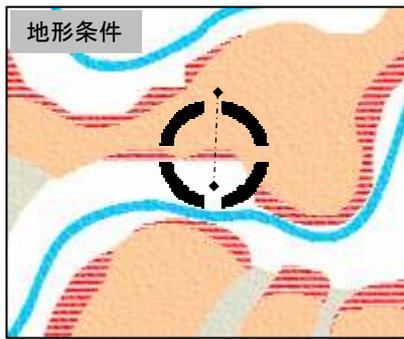
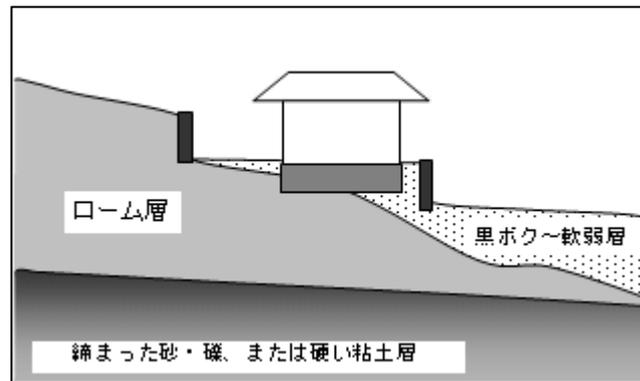


沈下事例ファイル **013** 台地と低地の境／東京都杉並区



- : 台地
- : 盛土地(谷)
- : 浅い谷
- : 平坦化地



地形と宅地の推定断面

【建物構造】 【地形・地盤】

- ・木造3階建て
- ・新築時に表層改良実施済 (改良厚 1.3m, 添加量 120kg/m<sup>2</sup>)

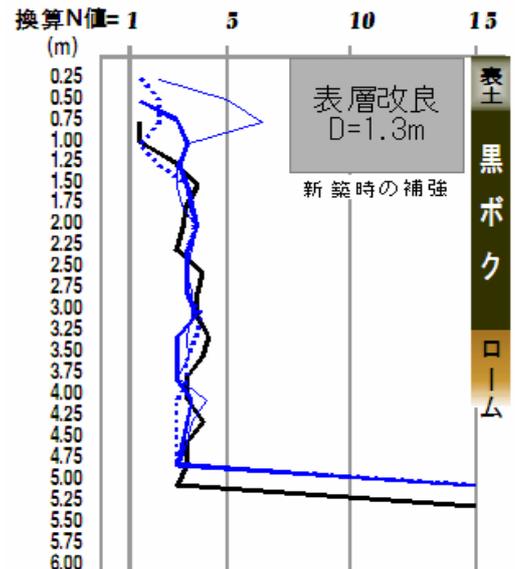
- ・台地の側面が低地へと下がる斜面に位置する
- ・深度およそ 5.0m 程度で、硬質層に到達。(わずかな傾斜あり)

【簡易土質サンプリング】

- ・谷側にて、1箇所実施。
- ・GL-3.0m を超える深度まで黒ボク土の堆積が確認された。
- ※通常、このデータの数値傾向から黒ボク分布深度を予想することは難しいものと思われる。

【沈下測定】

- ・東隣地方向へ最大で、~5/1000 弱の傾き
- ・測定期間内に、沈下の進行はほとんど認められない



新築時の調査データ&改良厚  
沈下発覚後の簡易土質サンプリング結果

【修正概要】

- 耐圧版工法+鋼管圧入 8箇所 (杭長 4.5~5.5m)
- ※表層改良体から十分な反力が得られず、部分的に鋼管圧入を併用。改良体の固化不良が原因と推定される。

【沈下要因解析】

- ローム層の傾斜のため、谷側での表土(黒ボク)の層厚が、調査データでは予想しにくい深度に及んでいた。
- 結果として、部分的に改良厚が不足していたと推定される。
- 黒ボクの土質特性により、局部的に固化不良が生じていた。
- 隣地外構の基礎工事が深部で越境していた。

